

コミュニティと丸の内の企業をつなげ、社会課題の解決へ発展させる登録制オープンスペース 東京・丸の内発！ CSVビジネス創発拠点「3×3 Labo」開設

■開設時期：2014年1月17日（金）～2014年8月末（予定）

■所在地：富士ビル3階（千代田区丸の内3-2-3）

三菱地所株式会社は、丸の内再構築プロジェクトの一環として建替えを予定している「富士ビル」に、CSV※1ビジネス創発拠点として、登録制オープンスペース「3×3 Labo」を2014年1月17日（金）より約8ヶ月間限定で開設します。尚、当該スペースは、大手町・丸の内・有楽町エリア（大丸有エリア）の持続可能なまちづくりを推進するエコツツエリア協会（一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会）に運営を委託します。

「3×3 Labo」は、「3 Gear × 3rd Place Laboratory」の略で、サステナビリティの3要素「経済・社会・環境」がギアのごとく噛み合い、さらに会社でも自宅でもない第3の場所「サードプレイス」として業界業種の垣根を越えた交流・活動拠点として機能する場所を意味しています。同施設では、エコツツエリア協会が運営している丸の内朝大学などのプロジェクトを通じて誕生した多種多様なテーマ型コミュニティや大学の研究所などが集まり、そこを拠点に交流し、コミュニティを活性化するとともに、エリア内の企業と結びつくことでCSV事業への発展を目指します。

施設内には交流を深める「サロン」、活動を発展させる「プロジェクトルーム」等を用意。エネルギーや循環型社会づくりといった環境、防災・減災、地域活性化、少子・高齢化、就業者の健康や子育て世代の働きやすい環境作り等、様々な社会課題をテーマに、各種セミナーやワークショップの開催のほか、社会実験や新しいビジネスモデルの研究や商品・サービス開発にも取り組みます。

三菱地所では、アジア諸都市との国際競争を勝ち抜くために、日本未進出の海外企業や世界展開を目指す日本の中小ベンチャー企業等の事業開発支援・誘致を行う「成長戦略センタープロジェクト」を推進しておりますが、今回の「3×3 Labo」では、未来を創る自由で柔軟な発想の「解放区」として、大丸有エリアに培われてきたコミュニティ活動のさらなる活性化を目指し、さらには当エリア内企業と連携、協働を図る中でCSV視点での新しいプロジェクトやビジネス創出を支援し、エリアの持続可能な発展を図ります。

※1CSV (Creating Shared Value) : 社会課題の解決を目指すビジネスの創出によって、社会と企業の双方に共有価値を創造する事業戦略のこと。
ハーバード大学ビジネススクールのマイケル・E・ポーターが中心となり提唱。

■オープン記念展示「炭素の魔法展」 ※詳細は、本リリース添付の別紙をご覧ください。

炭素の歴史と不思議、炭素を核とした新しい化学の世界の展開について紹介します。

企画・主催：触れる地球ミュージアム（竹村真一 + Earth Literacy Program）

協賛・出展協力：株式会社三菱ケミカルホールディングス／株式会社地球快適化インスティテュート／石油化学工業協会

会期：2014年1月24日（金）～3月5日（水）、3月17日（月）～3月28日（金）

（3月6日～16日は、東日本大震災から丸3年を迎える3月11日にあわせて、自然災害や丸の内での防災への取り組みなどの特別展示期間となります）



左：サロン

右：触れる地球ミュージアム

- 名称:「3×3 Labo」(さんさんらぼ)
- 所在地: 富士ビル3階(東京都千代田区丸の内3-2-3)
- 所有者: 三菱地所株式会社
- 運営主体: エコツツエリア協会(一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会)
- 床面積: 1,244㎡(一部、不使用室含)
- 開設時期: 2014年1月17日(金)～2014年8月末(予定)
- 利用時間: 10時～18時(土日祝日休み)
- 利用方法: 要登録
- 施設構成:

100席を収容する大会議室。以下のような各種セミナーやワークショップ、イベント等を開催するほか、プロジェクトから生まれたアイデアを実験的に実行する場としても利用します。

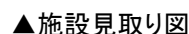
- ・土谷貞雄氏(くらしの良品研究所／株式会社貞雄代表)主宰のトークセッション「3×3 Laboセミナー」
- ・竹村真一氏(Earth Literacy Program代表／京都造形芸術大学教授)主宰のシンポジウム「地球大学」
- ・「丸の内朝大学」の会場 ほか

実践へと歩みを進めたプロジェクトが専用で利用できる個室です。

- ・「丸の内朝大学」の受講生が映像配信を行うスタジオ
- ・高齢化に対応した社会について考える「プラチナ社会研究会」
- ・慶應義塾大学SFC研究所 環境－文化再生デザイン・ラボと連携した実証実験（ほか）

竹村真一氏が企画する環境教育ゾーン。生きた地球の姿をリアルタイムに感じることができるデジタル地球儀「触れる地球」5機を常設展示。株式会社ウェザーニューズによる気象情報番組の特設スタジオとしても試験運用していきます。あわせてウェザーニューズと連携して、防災情報インフラ構築に向けた社会実験として一般の方から寄せられた災害情報をまとめていくマップの製作も行い、コミュニティの防災意識を高めていきます。

- その他施設:ライブラリー(関連書籍等の閲覧や情報検索)／貸会議室／事務室／倉庫／休憩スペース等
■その他設備:全室Wi-Fi完備



土谷貞雄氏をモデレーターに、2011年より「モノづくりからコトづくり」をテーマにアジアを舞台に活躍する若者をゲストに迎えてトークセッションやワークショップを展開。次世代のリーダーや様々な分野で活躍する参加者によるネットワークを拡大している。

過去のゲスト: 藻谷浩介(日本総合研究所調査部主席研究員)、家入一真(連続起業家)、岡勇樹(NPO法人Ubdobe代表理事)、成瀬勇輝(NOMAD PROJECT主宰)、長谷川哲士(株式会社minna代表取締役)、西村浩(建築家／ワークヴィジョンズ代表)他多数

竹村真一氏主宰。科学研究の最前線を交えながら地球環境の様々な問題や解決策についてトータルに学び、21世紀の新たな地球観を提示するシンポジウム。2009年にスタートし、2013年度は「食」をテーマとした新たな社会デザインについて、食、医療、健康、経済等様々なビジネス分野での有識者を交え、検討を進めている。

過去のゲスト: 細川モモ(予防医療コンサルタント)、荻原次晴(スポーツキャスター)、田坂広志(ソフィアバンク代表／元内閣官房参与)、藤田和芳(大地を守る会代表)、山村武彦(防災システム研究所所長)、石田雅芳(スローフードジャパン副会長)他多数

古田秘馬氏(株式会社umari代表)のプロデュースにより2009年4月に開校した、大丸有エリア全体をキャンパスに見立てた朝の市民大学。これまでの受講生数はのべ1万人以上。30代のビジネスパーソンを中心に、年齢、性別、職業、勤務地も様々な人が学んでいる。学びの場を通じたつながりが、地域や都市、社会全体の課題解決に取り組む活動へと拡大し、世の中にグッドシフトを起こしている。

池田靖史教授(政策・メディア研究科)が代表を務めるラボ。3×3 Laboと連携して、企業経営における「CSV(Creating Shared Value)」実践の活性化に向けた「交流によるCSVビジネス創成を助けるインキュベーション施設の在り方の考察」、および中心業務地区就労者による防災行動涵養社会実験の2テーマの実証実験を行う。

大手町・丸の内・有楽町エリアのサステイナブルなまちづくりの推進を目的として設置され、当協会会員による「ワーキンググループ」、丸の内朝大学や打ち水プロジェクトなどの「コミュニティアクション」、都市の低炭素化などを研究する「市場調査／R&D(研究開発)」、新丸ビル10階にある環境戦略拠点「エコツツエリア」の運営の4事業領域からなるシンク＆ドゥタンクです。エコツツエリアWEBSITE: <http://www.ecozzeria.jp/>